

スポーツクライミング競技規則 令和4年(2022年)4月14日 一部改定 主要変更点

旧	新	備考
<p>第10章 チーム・リード</p> <p>(競技時間)</p> <p>第135条 チーム・リードにおける競技時間については、第45条を適用する。</p> <p>-(最終準備および最終オブザベーション)-</p> <p>第137条 チーム・リードにおける最終準備および最終オブザベーションについては、第47条を適用する。</p> <p>(成績判定および順位付けに関する抗議)</p> <p>第154条 選手の成績判定および、選手とチームの順位付けに関する抗議は、文書で申し立てるものとする。</p> <p>=省略=</p> <p>3 抗議審判団は、特定のホールドでの選手の成績判定に関する抗議を受けた場合、当該ホールドをコントロール（保持）またはユーズ（使用）したと判定されたすべての選手の成績を再度判定するものとする。</p>	<p>第10章 チーム・リード</p> <p>(アテンプト・ピリオド)</p> <p>第135条 チーム・リードにおけるアテンプト・ピリオドについては、第45条を適用する。</p> <p>第137条 削除</p> <p>(成績判定および順位付けに関する抗議)</p> <p>第154条 選手の成績判定および、選手とチームの順位付けに関する抗議は、文書で申し立てるものとする。</p> <p>=省略=</p> <p>3 抗議審判団は、特定のホールドでの選手の成績判定に関する抗議を受けた場合、原則として当該選手のみを再度判定しなければならない。ただし、特段の事情がある場合は、当該ホールドをコントロール（保持）またはユーズ（使用）したと判定されたすべての選手の成績を再度判定することができる。</p>	<p>第10章および第11章の改定は、3月10日のSC競技規則一部改定に伴うものである。3月10日一部改定版の主要変更点についても併せて確認すること。</p>
<p>第11章 チーム・ボルダリング</p>	<p>第11章 チーム・ボルダリング</p>	

(競技会の構成)

第156条 チーム・ボルダリング競技会は、各カテゴリーにつき4ボルダーで構成される一つのコースで実施する予選および決勝の2つのラウンドで実施するものとする。

(予選の進行)

第165条 チームは、~~予選・トライミング・ウォール~~・ピリオド内に、2基のクライミング・ウォールごとに、各クライミング・ウォールに2つずつ設定されたボルダーで競技を行うものとする。

2 各ボルダーでのアテンプトの間に、~~予選・トライミング・ウォール~~・ピリオドと等しい休憩時間を設定する。

3 ~~各予選・トライミング・ウォール~~の終了時に、~~チーム~~がアテンプトを行っていた場合は、当該アテンプトを終了し所定のトランジット・ゾーンに入るものとする。トランジット・ゾーンは、当該チームがアテンプトを行っていないボルダーを観察できない位置に設置しなければならない。

4 ~~各予選・トライミング・ウォール~~の終了時に、~~チーム~~がトランジット・ゾーンで休憩していた場合は、次の~~ボルダー~~でのアテンプトを開始し、また~~コース~~を完了したチームはFOPから退去しなければならない。審判長は、チームが~~予選・トライミング・ウォール~~の終了より前にトランジット・ゾーンから解放されないことを確実にしなければならない。

5 監督は、チームのアテンプトが終了するまで~~休憩場所~~に入ることはできない。

(競技会の構成)

第156条 チーム・ボルダリング競技会は、各カテゴリーにつき4ボルダーで実施する予選および決勝の2つのラウンドで実施するものとする。

(予選の進行)

第165条 予選は、一連のアテンプト・ピリオドで構成され、チームは、最大競技時間内に、2基のクライミング・ウォールごとに、各クライミング・ウォールに2つずつ設定されたボルダーで競技を行うものとする。

2 各ボルダーでのアテンプトの間に、アテンプト・ピリオドと等しい休憩時間を設定する。

3 最大競技時間の終了時に、アテンプトを実施していたチームは、当該アテンプトを終了し所定のトランジット・ゾーンに入るものとする。トランジット・ゾーンは、当該チームがアテンプトを行っていないボルダーを観察できない位置に設置しなければならない。

4 最大競技時間の開始時に、トランジット・ゾーンで休憩していたチームは、次のクライミング・ウォールに設置されたボルダーでのアテンプトを開始するものとする。また、当該ラウンドのすべてのボルダーでの競技が終了したチームはFOPから退去しなければならない。審判長は、チームが準備時間の終了より前に、もしくは最後のクライミング・ウォールに設置されたボルダーのためのアテンプト・ピリオドの次のアテンプト・ピリオドが終了する前にトランジット・ゾーンから解放されないことを確実にしなければならない。

(オブザベーション)

第167条 チーム・ボルダリング競技におけるオブザベーションは、各ボルダーにつき2分間の集団オブザベーションを行うものとする。なお、複数のボルダーの集団オブザベーションを同時に行う場合は、1ボルダーあたりの集団オブザベーション時間に、対象となるボルダーの数を乗じた時間でオブザベーションを行うことができる。

=省略=

(~~リレー~~・ピリオド)

第168条 チーム・ボルダリングにおける~~リレー~~・ピリオドについては、第80条を適用する。ただし、~~リレー~~・ピリオドは、予選、決勝ともに5分とする。

(抗議の申立て)

第183条 チームが当該ボルダーでの追加アテンプトを行なうことが認められる抗議は、予選の場合は次の~~リレー~~・ピリオドの終了前に、決勝の場合は次のチームがアテンプトを開始する前までに申し立てなければならない。なお、当該抗議は口頭で申し立てるものとする。

2 チームが当該ボルダーでの追加アテンプトを行なうことが認められない抗議は、文書で申し立てるものとする。=省

5 監督は、チームのアテンプトが終了するまでトランジット・ゾーンに入ることはできない。

(オブザベーション)

第167条 チーム・ボルダリング競技におけるオブザベーションは、各ボルダーにつき2分間の集団オブザベーションを行うものとする。なお、複数のボルダーの集団オブザベーションを同時に行う場合は、1ボルダーあたりの集団オブザベーション時間に、対象となるボルダーの数を乗じた時間でオブザベーションを行うことができる。

=省略=

5 各ボルダーの写真を、各ボルダーのトランジット・ゾーンに掲示することができる。

(アテンプト・ピリオド)

第168条 チーム・ボルダリングにおけるアテンプト・ピリオドについては、第80条を適用する。ただし、最大競技時間は、予選、決勝ともに5分とする。

(抗議の申立て)

第183条 チームが当該ボルダーでの追加のアテンプトを行なうことが認められる抗議は、予選の場合は次のアテンプト・ピリオドの終了前に、決勝の場合は次のチームがアテンプトを開始する前までに申し立てなければならない。なお、当該抗議は口頭で申し立てるものとする。

2 チームが当該ボルダーでの追加のアテンプトを行なうことが認められない抗議は、文書で申し立てるものとする。=

略＝

(テクニカル・インシデント認定後の対応)

第184条 テクニカル・インシデントまたは第183条第1項に該当する抗議が認められた場合、次の各号のいずれかに従って対応するものとする。

(1) 当該テクニカル・インシデントまたは抗議が、次の~~ア~~~~テ~~~~ン~~~~プ~~~~ト~~・ピリオドの開始前に修復または解決できる場合、当該チームは以下のいずれかを選択しなければならない。

①当該~~ア~~~~テ~~~~ン~~~~プ~~~~ト~~・ピリオドでアテンプトを続行する。この場合、当該テクニカル・インシデントまたは抗議は修復または解決したものとする。

②当該~~ア~~~~テ~~~~ン~~~~プ~~~~ト~~・ピリオドでアテンプトを続行しない。この場合、審判長は影響を受けたチームの適正な休憩時間および他のチームへの影響の最小化、競技会全体の日程を考慮し、当該チームのアテンプト再開時刻を決めるものとする。

(2) 当該テクニカル・インシデントまたは抗議が、次の~~ア~~~~テ~~~~ン~~~~プ~~~~ト~~・ピリオドの開始前に修復または解決できない場合、テクニカル・インシデントの場合に限り、問題が修復または解決されるまで、影響を受けたチームおよびそのボルダーより前のボルダーにいるすべてのチームは、審判長の指示に従いそのラウンドでの競技を中断しなければならない。

＝省略＝

省略＝

(テクニカル・インシデント認定後の対応)

第184条 テクニカル・インシデントまたは第183条第1項に該当する抗議が認められた場合、次の各号のいずれかに従って対応するものとする。

(1) 当該テクニカル・インシデントまたは抗議が、次の**アテンプト**・ピリオドの開始前に修復または解決できる場合、当該チームは以下のいずれかを選択しなければならない。

①当該**最大競技時間内**でアテンプトを続行する。この場合、当該テクニカル・インシデントまたは抗議は修復または解決したものとする。

②当該**最大競技時間内**でアテンプトを続行しない。この場合、審判長は影響を受けたチームの適正な休憩時間および他のチームへの影響の最小化、競技会全体の日程を考慮し、当該チームのアテンプト再開時刻を決めるものとする。

(2) 当該テクニカル・インシデントまたは抗議が、次の**アテンプト**・ピリオドの開始前に修復または解決できない場合、テクニカル・インシデントの場合に限り、問題が修復または解決されるまで、影響を受けたチームおよびそのボルダーより前のボルダーにいるすべてのチームは、審判長の指示に従いそのラウンドでの競技を中断しなければならない。

＝省略＝

<p>付則</p> <p>本規則は、令和3年（2021年）1月21日から施行する。</p> <p>令和3年（2021年）3月11日 一部改定</p> <p>国民体育大会リード競技規定（平成20年4月1日施行）および国民体育大会ボルダリング競技規定（平成20年4月1日施行）を廃止し、本規則第119条から第184条までを施行する。</p> <p>令和3年（2021年）4月8日 一部改定</p> <p>令和3年（2021年）5月13日 一部改定</p> <p>令和3年（2021年）6月3日 一部改定</p> <p>令和3年（2021年）10月15日 一部改定</p> <p>令和4年（2022年）3月10日 一部改定</p>	<p>付則</p> <p>本規則は、令和3年（2021年）1月21日から施行する。</p> <p>令和3年（2021年）3月11日 一部改定</p> <p>国民体育大会リード競技規定（平成20年4月1日施行）および国民体育大会ボルダリング競技規定（平成20年4月1日施行）を廃止し、本規則第119条から第184条までを施行する。</p> <p>令和3年（2021年）4月8日 一部改定</p> <p>令和3年（2021年）5月13日 一部改定</p> <p>令和3年（2021年）6月3日 一部改定</p> <p>令和3年（2021年）10月15日 一部改定</p> <p>令和4年（2022年）3月10日 一部改定</p> <p>令和4年（2022年）4月14日 一部改定</p>	
---	--	--